

	課題分析	授業改善策
国語	基礎学力における生徒の個人差が大きい。基礎的な語彙が不足していたり、文章表現の能力が著しく低かったりする生徒が多い。定期テストや漢字テストに向けた学習や提出物に対して自ら学習を調整することや粘り強く取り組むことといった学習習慣の確立が課題であると考えます。	単元ごとの漢字テストで基本的な語彙の獲得を目指す。また、自分の考えを記述する課題を多く盛り込むことで文章表現のトレーニングを積ませていく。生徒の学力を踏まえてスモールステップの課題を課したり、生徒にとって身近なテーマを取り上げたりすることで、自らすすんで、粘り強く学習に取り組めるようにしていきたい。
社会	午後の授業になると、集中できなくなる生徒が多い。日々の課題についても、生徒の学力に応じて取り組みに差がある。授業に対する意欲が低い生徒は、課題の提出状況もよくない。	集中力がなくなってきた際には、授業に関連した映像を見せるなど、意欲的に取り組むことができる工夫を授業の中でおこなっていく。課題については、提出状況に応じて、声かけや助言など、意欲が喚起できるように個別の対応を心がける。
数学	基礎学力の定着ができていない生徒が多い。教科書の例題レベルでもその場ではなんとか理解できる生徒は多いが、いざ類似問題を行うときに何をすればいいのかが理解できておらず、本質的な理解に課題がある。	授業のはじめに前時の復習を行う。その際、小テストや振り返りシートを用いて、自分自身で考えさせる活動から、能動的な知識・技能の定着を促す。また、授業内で問題解決までの思考過程を密に共有し、類似問題を自力で解けるようにしていきたい。
理科	基本的な知識や理解する力、実験・観察の技能における個人差が非常に大きい。自然科学的事象に対する興味関心は高いが、基礎的な計算力や語彙が不足しているまま進学進級してきている生徒も多く単元によっては興味関心にも影響が出ている。	基礎的な知識（小学校、中学1年レベル）が不足のものを拾い上げるために、基礎的・基本的な内容を含ませたワークシートを使って知識と理解力を確認しながら学習させ、ドリルによって定着させる。とくに理解力不足のものには定性的思考から理解させていき、定量的思考の必要性を認識させていく。グループワーク等で対話的学習の機会を設け、主体的な取り組みから自己学習力を高める。
音楽	合唱の授業に意欲的に取り組む生徒が多い。一方で、鑑賞では集中力にムラのある生徒が見られる。	生徒が興味をもてるよう、授業の導入の工夫を行ったり、写真や動画等を提示することで、集中して授業に取り組めるよう改善していく。
美術	座学は落ち着いて取り組んでいるが、作品制作の時間に集中力が持続しない場面がある。	授業ごとに達成すべき目標を明確にし、目的意識をもたせて生徒が主体的に授業に取り組めるよう改善していく。
保健体育	授業に積極的に取り組む生徒が多く、授業は生徒主体に進んでいる。一方で、基本的な知識・技能・体力の個人差が見られたり、動きを文章で表現したりすることが苦手な生徒が多い。競技によっては集中が続かず参加しない生徒がいる。	授業をスモールステップで行い、全体の技能を上げていく。習熟度別で課題を確認し、主体的に自己の課題に取り組める環境づくりを行う。また、学習カードを用いて、自己評価を毎回行うことで理解度の確認を行う。規律を自分たちで守らせ、集団としての力を育成していく。

技術・家庭	実習や実験・製作に関しては、意欲的に取り組む生徒が多いが、水やりなど根気よく毎日続けるの作業や観察など、同じ作業を集中して続けることができない生徒がいる。(技術) 発問に対して積極的に答え、意欲的に授業に取り組むことができている。作品製作に関しては、自らの作業工程と手順書を結びつけて考えることが難しく、作業の見通しを立てることが難しい生徒が多い。(家庭)	ワークシートを利用し、毎時間の授業の中で、作業や観察を行うようにさせ、学習の継続と集中力や理解力に問題のある生徒に目を配り配慮する。(技術) 作業が遅れている生徒には個別に対応し、タブレットなどを活用して自ら作業工程を確認できるようにする。(家庭)
外国語	帯活動のビンゴは積極的に取り組むが、ゲームで終わり気味で、単語を覚えることになかなかつながらない。授業があった日の家庭学習で取り組む内容を詳細に伝え、ルーティン化することを伝えているが、習慣化は難しい。読解が苦手な傾向があり、文の内容を読み取る練習が必要である。	2学期以降の授業では、ビンゴと並行して、読み取りの帯活動を始める。速読のトレーニングも兼ね、英文を読む量を増やしていく。WPM（1分で何語読めるか）を意識し進める。昨年、単語テストも範囲を区切って実施したときに効果的だったので、まとまった単位の単語テストも実施する予定。